

2026 年度

大学院 商学研究科〔博士課程(前期)〕

第 I 期 入 学 試 験 問 題

論 文

◇試 験 時 間…………… 10 : 00 ~ 11 : 00

◇解 答 時 間…………… 60 分

◇解答はすべて別紙の解答用紙に記入すること。

◇問題は全部で 3 ページある。試験開始後, 乱丁・落丁がないか確認すること。

志願時に選択した主専攻の系列の問題を解答すること。

「経営系列」は 1 ページ, 「会計系列」は 2 ページ, 「租税法系列」は 3 ページに問題があります。

経営系列

問. 以下の各設問について答えなさい。

設問1 M&A とは何かその定義と効果と課題について説明しなさい。

設問2 テイラーの科学的管理法における課業管理について説明しなさい。

会計系列

問. 次の A と B の問題から 1 つを選択し、解答しなさい。なお、解答にあたっては、選択した問題の符号 (A か B) を、冒頭に明記すること。

- A. 費用・収益の認識に関する基本的な考え方には、現金主義と発生主義がある。これらの会計基準に基づいて行われる会計を現金主義会計と発生主義会計という。現金主義会計と発生主義会計とは何かを明らかにし、それぞれの利点と欠点を説明しなさい。
- B. 原価企画(target costing)とは何かを明らかにしなさい。なお、原価企画の概要、目的、原価企画を支援するツールおよび今日的課題の説明を含めて記述すること。

租税法系列

問. どのような税をどのような理念に基づき課すべきかといった税制の準拠すべき一般的基準を追求して説かれたものが租税原則である。この租税原則は配分原理を根底に置きながら、他の幾つかの点をも考慮に入れている。更に、この租税原則は時代によって、そしてその政治的、社会的、経済的背景等によって変化してきた。現在、一般的には、租税原則として公平、中立、簡素の原則が基本原則として挙げられている。そこで、公平、中立、簡素について、具体例をあげながら、説明しなさい。